

家族と学校

昔の話です。お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんは、みんなお家で働いていました。ある家族は、田んぼでお米を育てたり、畑で野菜を育てたりしていたのです。みんなで一つの仕事をしていました。また、ある家族は、おじいちゃん、お父さんが船に乗って魚を捕りに漁に出て、おばあちゃん、お母さんや子どもは、とった魚をさばいたり、干物にしたりしていました。みんなで一つの仕事をしていたのです。そう、農業や漁業が中心の世の中だったのです。

子どもたちは、お家の人働く姿を見て、まねをしたり、手伝ったりしていたのです。お父さんも、お母さんも、おじいちゃんも、おばあちゃんも、みんなお家にいたから、子どもたちもお家について、みんなの姿を見て育っていったのです。遊び相手は、兄弟であったり、近くに住んでいる友だちであったりでした。

やがて、町には機関車が走り、車が行き交う世の中になってきました。今度は、工業が中心の世の中になったのです。お父さんやお母さんは朝から会社に行き、夜になって帰ってきます。忙しそうに働いているのです。子どもたちの周りには、いつも近くにいた家族が、昼間はいなくなってしまうのです。子どもたちだけで1日過ごすことはできないので、あるものができました。それは、「学校」です。今まで、家の中で育っていた子どもたちが、1日の多くの時間を学校で過ごすことになったのです。

学校には、様々な年の子どもが集まります。様々な地域から子どもが集まってきます。持ち物や習慣が違います。だから、「きまり」ができました。みんなで生活するのだから、みんなが気持ちよく生活するために、きまりやルールを守る必要が出てきたのです。東京女学館小学校にも、きまりがあります。

また、学校には、お家にいる時よりもたくさんの子どものいます。だから、学年ができました。学級ができました。そして、先生が必要になったのです。先生の言うことを聞いたり、上の学年は下の学年のお世話をしたりする。そんな習慣もできたのです。

2学期が始まっています。きまりを守り、優しさにあふれたりする学校、学級にしましょう。明日は学校の誕生日、創立記念日です。